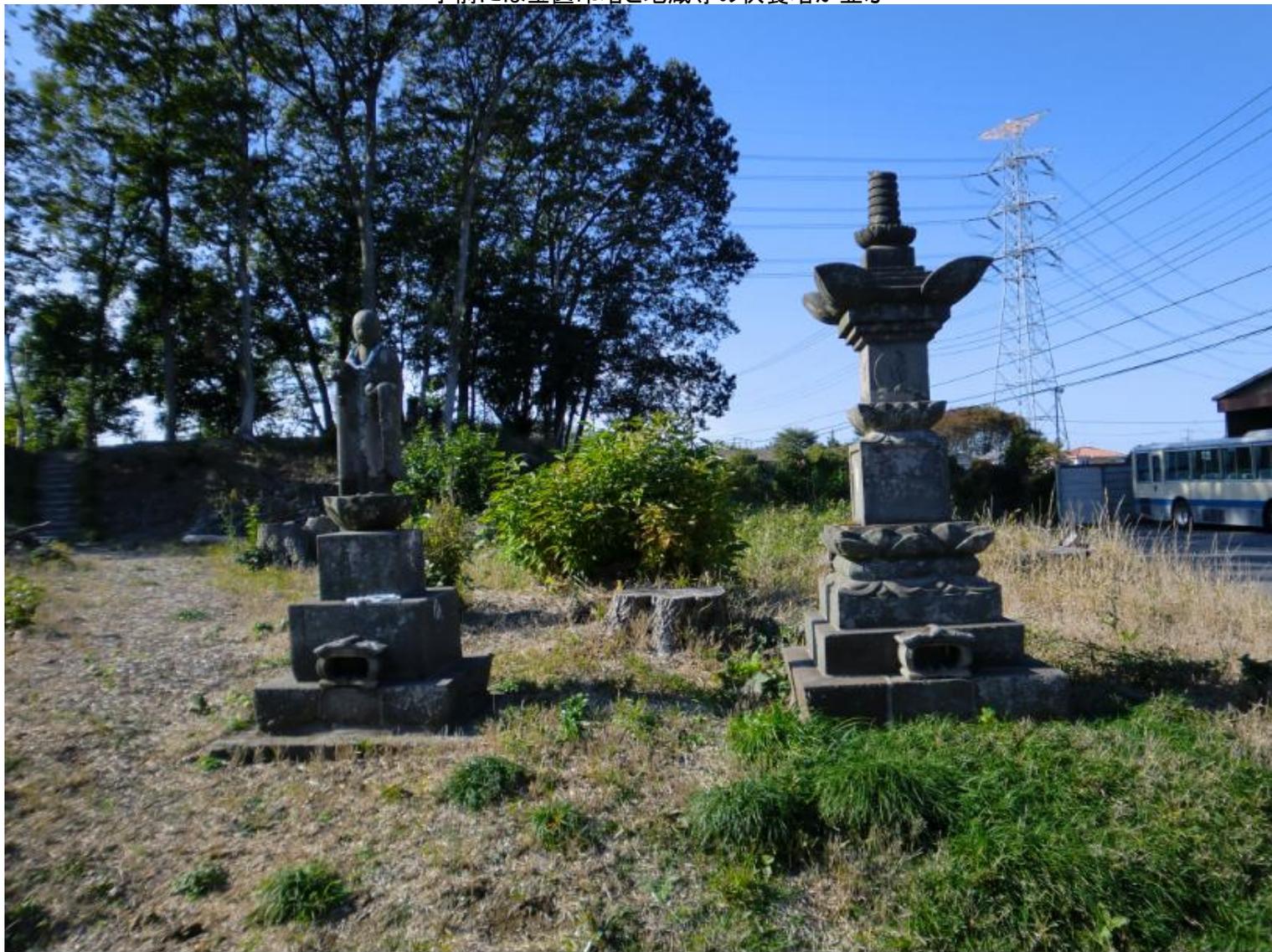


雷電塚古墳(坂戸市)

正面左手が前方部、右手が後円部



手前には宝篋印塔と地藏尊の供養塔が並ぶ



正面左手が前方部、右手が後円部



雷電塚古墳（雷電塚一号墳） 埼玉県指定史跡

雷電塚
昔を伝える
二子山



坂戸市文化かるた

鍵穴のような形をした、前方後円墳です。古墳時代後期（六世紀中ごろ）に造られたと考えられています。ほかに、いくつもの古墳が近くにありますが、古墳の周りを囲む堀の跡からは、埴輪や須恵器の破片がみつかりました。後円部の墳頂（高さ三・八m）に、「雷電社」があるので雷電塚と名がつけました。



雷電塚古墳 推定復元図

坂戸市内で七基の前方後円墳が確認されていますが、そのうちの一基が雷電塚古墳です。後円部の墳頂に雷電社が祀られているので、雷電塚と呼ばれたそうです。本格的な発掘調査を行っていないので、主体部（人を埋葬した場所）など詳しいことは分かっていません。古墳の全長は四七m、後円部の直径は二五・五m、高さは三・八mです。西側の前方部と後円部の一部が削られています。前方後円墳の形状がよく残っています。

平成二年一月に埼玉県教育委員会により、東側のくびれ部（前方部と後円部の境部分）と前方部南側の周溝の調査が行われました。くびれ部では周溝の幅が九・八m、前方部では五・五mでした。周溝は墳丘に沿うように、鍵穴の形のようになっていたと考えられます。

周溝の中からは、円筒埴輪の破片をはじめ、朝顔形埴輪、須恵器などが出土しました。これらの遺物から、古墳を築造した年代は六世紀中ごろと考えられます。また、雷電塚古墳の周辺を調査した結果、これまでに十基の円墳の周溝が発見されました。今は墳丘が削られてしまいましたが、雷電塚古墳の周りには多くの円墳が造られていたと考えられます。



周辺の古墳分布図

平成二十三年十一月

坂戸市教育委員会



3墳 ●
東光寺 卍



調査区空撮

雷電塚古墳
(1墳)

7墳 ●
5墳 ●
9墳 ●
8墳 ●
6墳 ●
2墳 ●
4墳 ●



雷電塚13号墳出土人物埴輪



調査区空撮



雷電塚12号墳出土馬形埴輪

10墳 ●
11墳 ●
12墳 ●
13墳 ●

裏手から見る/正面左手が後円部、右手が前方部



くびれ部(正面中央)に木製階段が整備されていた



墳丘に登り後円部を見る





後円部墳頂の雷電社



振り返って前方部を見る



古墳の周りを囲む堀跡(周溝部)/かなりの部分は畑として埋められている



5～9号墳(円墳)のあった所は既に宅地開発されている



2号墳(円墳)



やはり墳頂には社があった



